

手をたずさえて

- 自ら学ぶ生徒
- 正しく行動する生徒
- 健康でたくましい生徒



平成31年3月13日(水)発行

【発行責任者】郡山市立富田中学校長 熊坂 洋

卒業おめでとうございます

『一期一会』～人との出逢い、出逢った人からの学びを大切に～

「行き場を失った人々に残ったのは、人が人を救い、支え、寄り添う『絆』という文化だった。『絆』という字は、漢字では『半分の糸』と書きます。『半分の糸』が、どこかの誰かとつながっているという意味です。困っている人がいれば助ける。人として当たり前の行為なのです。」

東日本大震災直後から復興支援に力を尽くした、俳優の渡辺謙さんが発信した言葉です。

あの東日本大震災、そして福島第一原発事故から8年が経過しました。

渡辺謙さんの言葉にある、この日本が誇る『絆』という文化を、東日本大震災から9年目を迎えたこの節目に、しっかりと噛みしめたいと思います。

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。巣立ちゆくきみたちへ、私から最後のメッセージです。特設水泳部や陸上部、女子卓球部の全国・東北大会出場をはじめとする運動面・文化面における対外的な行事での、きみたちの多くの活躍、本当にすばらしかった。同時に、上位入賞できなくても部活動を最後までやり抜いた多くの生徒達、大きな大会等はなくとも、地道に活動を続けた美術部、科学部、家庭科部、情報処理部の文化部生徒達の頑張りにも大きな拍手をおくります。部活動においては、賞を得ること、技術を向上させることにもまして、どれだけ本気になって取り組めたか、人間としての力を高めることができたか、というところに価値があると考えます。



生徒会最大のイベント「榎祭」での光り輝くきみたちの姿はもちろんですが、私が特に印象に残っているのは、2年の3学期に行われた「クラスステージ発表」でした。おとぎ話や童話をモチーフに、中学生風アレンジしながら、本気になって劇をつくり、演じ、演出した姿に、学級のチーム力を感じました。きみたちらしさが出ていて、次へのステップに繋がる意味のある活動だったと思います。

また、きみたちは、プロの職業人、アジアの留学生、高校生の先輩達など、1年生の時から総合学習を中心に様々な人とのかかわる学習を続けてきました。このような様々な人とのかかわりから生まれる学びは、「自分の生き方」という視点から、その1つ1つが1本の線で繋がっていくのです。

『一期一会』(いちごいちえ)という言葉があります。

この言葉は、「あなたとこうして出逢っているこの時間は、二度とは巡っては来ない、たった一度きりのもの。だから、このときを大切に思い、心を込めて精一杯のことをしましょう。」という意味で用いられます。人はみな、だれもが通ったことのない自分がはじめて通る道を一生かかっている。その道すがら、様々な人との出逢いがあることなのでしょう。どうか、そんな人との出逢い、そして出逢った人からの学びを大切にしながら、だれもが通ったことのない自分がはじめて通る道を一步一步確実にあゆんで行ってください。その中にこそ、渡辺謙さんの言う『絆』を実感できる時がたくさんやってくると思います。

～平成30年度第33回卒業証書授与式 校長式辞より～

保護者の皆様へ 長きにわたるご協力・ご支援に感謝申し上げます



お子様のご卒業おめでとうございます。210名の卒業生達は、この3年間で大きく成長しました。その誕生から今日まで、喜びや苦しみを共にして見守り続けてこられた保護者の皆様へ心よりお祝い申し上げます。これからも優しさや厳しさの中で我が子を信頼し、心の絆をしっかりと結んでいただくよう、お願いいたします。また、これまで長きにわたり、PTA活動や部活動でのご支援等、本校の教育活動に寄せていただきましたご理解とご協力に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

生きる

生きているということ
命があるということ
必ずいつかは死ぬということ
だからこそ 命を大切にすること
命のバトンをつなぎ
リレーしていくということ

生きているということ
恐怖を感じるということ
困難があるということ
たくさんの困難を乗り越えていくということ
たくさんの喜怒哀楽があるということ
悲しみも怒りも
いつか楽しみや喜びに
変わるかもしれないということ

生きているということ
人は一人では生きていけないということ
人と共に生きるということ
助け合うということ 友達がいるということ
家族がいるということ
人のために涙を流せるということ
互いを思いやり
支え合い励まし合っていくということ

生きているということ
自由であること
人生を謳歌すること
人間らしく生活すること
幸福を求めること

生きているということ
世界の誰かのために生まれてきたということ
まわりに必要とされる存在になるということ
人のために働くということ
世界の歯車の一部になるということ
平和を創っていくということ
ひとつの笑顔が
心の平和につながるということ
未来があるということ
未来を考えるとこと
未来への架け橋をつくっていくということ

生きているということ
いまを生きているということ
いまを生きているということは
過去を受け入れ 未来を思い描きながら
いまの自分を大事にしていくこと
いまの他の人を大事にしていくということ

生きているということ
可能性があるということ
何かをやり遂げるチャンスがあるということ
学ぶということ
自分を探し求めるということ
失敗から学ぶことの連続であるということ
経験を積み重ねていくということ

生きているということ
それは 挑戦であり
成長でもあるということ
強くなっていくということ
自分に自信をもって
これからをきりひらいていこうとすること

生きているということ
それは かけがえのないこと
それは 自らを
生きていこうとすること
生きているということ
それは
とてもすばらしいこと



11月16日に開催された教育講演ライブで、心に染み渡る演奏とトークを披露してくれた盲目のミュージシャン増田太郎さん。「生きる」ことについても深く考えることができました。



「太郎ワールド」に身も心も引き込まれた至福の90分間でした。

2016年、郡山市の中学生が創り上げた《生きる》というタイトルの詩。太郎さんが、この詩に楽曲を書き下ろしてくれました。本校の講演ライブでは、この《生きる》の生徒による朗読と太郎さんの演奏のコラボレーションを実現することができました。道に迷ったとき、困難にぶつかったとき、心が折れそうになったとき、この《生きる》をぜひ思い出してほしいと願っています。